

催し物のご案内 (7~9月)

観覧会・講座等

- ①研究テクニック講座「図鑑を作ろうー魚編ー」
日時：7月7・14日(日) 9:30~16:00
対象：一般 10名(抽選)
募集：5月28日(火)~6月18日(火)
- ②野外観察「水辺の昆虫ウォッチング」[厚木市]
日時：7月13日(土) 10:00~15:00
対象：小中学生とその保護者 50名(抽選)
募集：6月4日(火)~25日(火)
- ③野外観察「夜の昆虫探検隊」[厚木市鳶尾山]
日時：7月23日(火)~24日(水) 1泊2日
対象：小中学生とその保護者 50名(抽選)
募集：6月11日(火)~7月2日(火)
- ④室内実習「標本を調べよう」
日時：7月21日(日) 13:00~16:00; 30日(火) 13:00~16:00; 8月24日(土) 10:00~15:00
対象：小中学生 40名(抽選)
募集：6月11日(火)~7月2日(火)
- ⑤特別展講演会「神奈川のレッドデータ生物(仮題)」
日時：8月17日(土) 13:30~15:30
講師：平塚市博物館学芸員 浜口哲一
対象：一般 80名(抽選)
募集：7月9日(火)~30日(火)
- ⑥室内実習「博物館探検隊」[博物館]
日時：8月27日(火) 10:00~15:00
対象：小中学生 40名(抽選)
募集：7月16日(火)~8月6日(火)
- ⑦かながわ県民アカデミー「里山の自然を考える」
日時：[講義] 9月1日(日)・7日(土)・8日(日)・10月5日(土) 13:30~15:30; [観察] 9月15日(日)・28日(土) 10:00~15:00
講師：当館学芸員および外部講師(予定)

- 対象：県内在住・在勤の成人 40名(抽選)
募集：7月23日(火)~8月13日(火)
- ⑧野外観察「磯の動物ウォッチング」[真鶴町]
日時：9月14日(土) 10:00~15:00
対象：小中学生とその保護者 50名(抽選)
募集：8月6日(火)~27日(火)
 - ⑨研究テクニック講座「植物分類・生態講座」(箱根の植物群落)[博物館・箱根町駒ヶ岳]
日時：[室内] 9月21日(土) 13:30~16:00; [野外] 9月22日(日) 10:00~15:00
対象：一般 40名(抽選)
募集：8月13日(火)~9月3日(火)
- 申込方法：往復はがきに参加行事名、参加代表者の住所、氏名、電話番号(連絡先)、参加する人全員の氏名と年齢(学年)を明記して、お申込みください。宿泊費実費負担の「夜の昆虫探検隊」以外は無料です。

身近な自然発見講座

- 毎月第3水曜日に、博物館周辺での自然観察や館内での実習・実験をする身近な講座を開催しております。参加費は無料で、事前の申し込みはおりません。当日博物館正面玄関前にお集まりください。雨天の時は中止します。
- 対象：一般、講師：当館学芸員
持ちもの：筆記用具、ルーペ、昼食、雨具等
- [第4回] 7月17日 10:00~15:00
ーコケの観察を中心としてー
 - [第5回] 8月21日(水) 10:00~15:00
ー動植物の観察を中心としてー
 - [第6回] 9月18日(水) 10:00~15:00
ー動植物の観察を中心としてー

特別展のご案内

「追われる生きものたち」

- 一神奈川レッドデータ調査が語るもの一期日：7月20日(土)~9月23日(月)
(開催中、9月16日、23日を除く毎週月曜日休館)
平成4年度から6年度にかけて実施した「神奈川県レッドデータ生物調査」を基に、神奈川県内から姿を消したり、生存が危うくなりつつある生きものたち(レッドデータ生物)を紹介し、その衰退の理由も探ります。
会規中の日曜日、午後1時30分から会場で当館学芸員が展示解説をします。
- 特別展観覧料 20歳以上：200円
20歳未満・学生：100円
高校生以下・65歳以上：無料

館の活動

平成7年度

- 3月1日~5月12日 特別展『中津層出土のサル化石』開催(期間中の毎週日曜日に特別展の展示解説を実施)
- 3月2日 特別展講演会・第1回自然科学講演会「中津層出土のサルとその時代の動物」【参加者：61名】
講師：横浜国立大学名誉教授 長谷川善和
- 3月2日~3月17日 研究テクニック講座「大地の生い立ちを探る」【参加者：2日19名、3日17名、9日21名、10日18名、16日17名、17日16名】
講義・観察場所：博物館実習実験室、小田原市石垣山一夜城および酒匂川]
- 3月9日 野外観察「早春の雑木林ウォッチング」【参加者：32名】[大和市つきみ野]
- 3月15日 広報紙『自然科学のとびら』第2巻第1号(通巻第4号)発行
- 3月20日 開館1周年記念講演会「自然誌(史)系博物館の位置づけ」【参加者：269名】
講師：千葉県立中央博物館長 沼田 眞、ミュージアムパーク茨城県自然博物館長 中川志郎、生命の星・地球博物館長 濱田隆士
- 3月20日~3月31日 開館1周年記念 当館学芸員によるミニレクチャーの実施
- 3月20日 神奈川県立博物館研究報告 自然科学25号 発行
- 3月23日 室内実習「中津層の化石を探る」【参加者：48名】
- 3月30日 特別展講演会・第2回自然科学講演会「中津層のサル化石」【参加者：57名】
講師：日本モンキーセンター所長 岩本光雄
- 3月30日 神奈川自然誌資料 第17号 発行
- ### 平成8年度
- 4月2日 室内実習「博物館探検隊ー博物館写真オリエンテーリングー」【参加者：29名】
- 4月13日 野外観察「化石ウォッチング」【参加者：25名】[大磯町大磯海岸]
- 4月17日 野外観察「身近な自然発見講座ー動植物観察を中心としてー」【参加者：16名】[博物館周辺]

ライブラリー通信

マラコフィラテリーって何だ？

世界中のどこの国にもマニアがいるだろうと思われるものに切手収集があります。私たちが通常使っている切手を普通切手と言いますが、この普通切手の図案には動植物が多く用いられています。3月に1,000円の最高額の普通切手が発行されましたが、図柄は戦国時代の画家、雪村周継の代表作の一つである「松鷹図」を使っています。私たちがよく使うのは50円と80円切手でしょう。図柄はそれぞれ「メジロ」と「ヤマセミ」です。偶然、鳥ばかりになってしまいましたが、他にも自然を扱った切手はたくさんあります。それらを集めて本にしたものもありますので、少し紹介しましょう。

一番多いと思われるのが昆虫の切手です。『図説昆虫切手の博物館』(築地書館)では、蝶や甲虫をはじめ、蜂やトンボ、蚊、さらにはゴキブリの切手にまで話は及んでいます。また、日本郵趣協会昆虫切手部会が発行した『世界の昆虫切手』には驚かされます。書名のとおり、世界中の昆虫切手、約3,500点の詳細データが記録されています。昆虫の学名・和名・科名まで調べ上げてあり、マニアックと言っても過言では無いでしょう。

貝の切手にも美しいものがあります。『世界の貝切手ー軟体動物切手総目録ー』(長崎県生物学会)には、綺麗な貝等がカラーで紹介してあり、小学生の頃集めていた、琉球郵便の貝切手シリーズを思い出させてくれました。また、『貝の博物館』(保育社)によると貝切手収集のことをマラコフィラテリーと呼び、貝切手を集める人をマラコフィラテリストと言うそうですが、こちらもかなりなものです。

他に『蝦と蟹一切手をめぐるその自然誌』(恒星社厚生閣)、『カニ百科』(成美堂出版)、『虫屋のよろこび』(平凡社)等があります。最近では、未来文化社が「切手ミュージアム」と銘打って、『よみがえる恐竜たち』『クジラ・イルカと海獣たち』を出版しました。「自然切手」の世界は、まだまだ広がりを見せそうです。(当館司書・土屋定夫)